



シャミナード年

2011年2月の祈り

この祈りに入るに当たって、案内人に従ってボルドーからエルサレムへ参りましょう。

私たちの想像が神との対話を促進し、神のもとに私たちを導いてくれるようにしましょう。

急がずに進みましょう。歩みを止めたい時は立ち止まり、道中出会う人たち、即ち、神と心をこめて語り合しましょう。祈りを書き留めておきたいならそうしてください。そしてそれ以後の日々も同じように致しましょう。

わたしたちの道案内人が指示する通りに、ふとある時に、高間をイメージするのは良いことです。

高間は人がそこに居たいと思う場所ですから何度でも繰り返しそこを尋ねましょう。

ボルドーからエルサレムへの往復の巡礼旅行

1801年2月2日、コングレガシオンの創立記念の考察と祈り

導 入

聖書考古学によれば、**ボルドーからの巡礼者**は、匿名のユダヤ・キリスト教徒の旅行者だったようです。それは西暦333年のことでした。彼らはローマやミラノを通過してエルサレムへ行ったことが記されている。その年代記は巡礼について記録された一番古い物語かも知れない。それには当時の色々の建造物とか、距離や、目印となるものについての有益な記述がなされていた。ミラノやセルミウン（セルビア）を通過して、コンスタンチノーブルに到着し、エルサレムへと赴いた。このことはまた、早くから周知されていたエルサレムに住むキリスト信者の記録でもあった。巡礼者たちは巡礼の帰路の折、12月25日にコンスタンチノーブルに到着したと述べています。と言うことは、7月と8月はエルサレムに滞在していたと推理されます。彼らの巡礼はフラビウス・ダラマチウスとドミチウス・ズノフィルスが領主の時に旅行したと言えるでしょう。その日時は西暦333年に、ボルドーからエルサレムへ巡礼したと確定出来ます。

開 始

徒歩でボルドーを離れながら、祈りの中で自分が旅している姿を想像してみましょう。ボルドーの巡礼者と一緒に東の方角、エルサレムを目指して、田舎町や都会の街を通過しながら、弧形になって歩きましょう。私たちは、エルサレムについて、そして、聖書のたとえ話とか物語のなかで語られている多くの出来事を思い出すことで、私たちの心は動かされます。それは即ち、キリストはわたしたちを共同体として集め、弱火で焼いた魚と、ご聖体拝領にあ

ずからせるため、そしてまた、岸边での真福八端で私たちの心を動かそうとされるのです。シオンの山の稜線上にある旧市街の中にシオンの門があって、その門のすぐそばに高間があります。

今日では、その場所とか、建設時の土台、そして、その頃の壁しか残っていません。私たちは、この最初の教会で祈りそして古くから多くの呼び名で知られている事をおもいだします。その呼び名は、使徒たちの高間、神の小さな教会、神の新しいイスラエルの民、神のコングレガシオン、神の民の集会、神の民の集団等です。しかし、より多く**神の教会**と呼ばれています。私たちは、高間について、その壁とか、その天井やその空間などについて、自分なりに想像することもできます。高間、それはイエスの共同体の場所であり、やがては聖霊降臨を待つ場所となりました。



私たちは階段を登りながら高間の中へ入ります。そして早朝から、そこで祈りながら高間のすべてを発見します。一つの空間、私たちが滑り込める空間があります。その空間とは、マリア様の前にある空間のことです。今私たちは考察の中で輪の中に加わります。一つの共同体としての輪の中に、マリアと共に、マリアの中に入ります。使徒たちの足が洗われたのはこの場所です。初めて聖体の秘跡が行われたのもこの場所でした。そしてそこにおいて聖霊は、聖マリア、使徒たち、敬虔な婦人たち、そして仲間たちを祝福されました。恐らくそこには多くの幼子たちも保護されていたに違いありません。高間の扉は社会の権威者に向かって閉じられていたからです。

食堂の中央ではマリアが皆と対話されたり、一緒に祈られたりする姿を想像することが出来ます。彼女は彼らに色々と助言したり、慰めたり、励ましたりなさったことでしょう。マリアと他の者たちは静粛に対話をされたに違いありません。希望に満ちた、勇気の湧く調べがあります。しかし少し恐れや不安の混じったものです。聖霊降臨の時の炎は彼らの心と精神を燃え立たせ、彼らは同時に異語を話す力とそれを理解する力を同時に頂きました。即ちそこではイエスの使徒的な共同体が生まれたのです。

さて今、1801年2月にギヨーム・ヨゼフ・シャミナードがエルサレムからボルドーへ歩いている姿を心の中で想像してください。道中キリストと出会い、彼はイエスを家へご案内し、ボルドーの高間に入ります。中に入ると、そこにはアデル、マリーテレーズ・ド・ラムルス、そして多くの信仰に満ちた男女がいてマリア様と共に祈っていたので、その祈りの輪に加わります。再び聖霊降臨の炎が彼の心と精神を燃え立たせます。そして知恵と勇気とをもたらします。ボルドーの最初のコングレガニストが集合して、マリアの家族が誕生したのです。

聖霊を頂くために「ボルドーの階上の部屋」の家に帰ります。私たちは福者ギヨーム・シャミナード師のため、そして彼が神から頂いたヴィジョンと信仰のために、神に感謝しながら祈ります。

こうして、この祝いの期間中に、修道者も信徒マリアニストも皆、私たちの霊性の核にせまる絵、即ち、高間のイコンの絵を私たちの魂と心に留めて置きましょう。

(アメリカ合衆国、エタのCLM共同体から提示された祈り)